

I 実践

1 研究主題

一人ひとりが人権尊重の自覚をもち、互いに認め合い助け合う児童の育成

2 主題設定の理由

本校の児童は明るく素直な反面、相手を思いやる配慮に欠けたり、やや自己中心的な言動によるトラブルが目立つという実態がある。そこで、人権教育においては「自分を大切に、他人も大切に」をテーマに、上記の主題を設定した。一人一人が大切な存在であることを自覚するとともに、他者への思いやりのある言動のとれる児童の育成をねらいとして研究を進めたい。

3 実践内容と成果

(1) 人権に関する映画を活用した学習（校内人権週間の期間中に実施）

第1～3学年は「もも子、かえるの歌がきこえるよ」、第4～6学年は「ハードル」をそれぞれ鑑賞した。「もも子、かえるの歌がきこえるよ」では、知的な遅れと体の障害をもっている双子の妹に対する兄と周囲の心の変化の様子を描いており、ハンデをもっている人に対する思いやりの心を育てることができた。「ハードル」では、主人公が万引きの犯人と誤解され傷つくが、友人の言葉に救われ、心の輝きを取り戻す作品で、他者への思いやりのある言動について共感することができた。

(2) 校内人権週間「なかよし週間」の活動〔平成24年10月1日（月）～5日（金）実施〕

「なかよし週間」は、本校で7年間継続して実施している。その期間、身近にいる友だちの存在を意識し、仲良く楽しく生活するためのポイントをチェックカードに提示して振り返らせており、互いに認め合い助け合うことの大切さや友だちのすばらしさについて考えながら生活するよい機会になっている。

(3) 異学年との交流活動

ア 生活科

生活科では、4月に2年生と1年生がペアになり学校を案内する学校探検を、11月には2年生が1年生と近くの幼稚園生を招待してお祭りを実施している。どちらも優しく声をかけ、教えながら楽しく活動する姿がみられた。

イ 縦割り班遊び（異学年の集団活動）

1～6年生の縦割り集団を編成し、班長を中心にそれぞれの班で計画した遊びを、年3回行っている。上級生は、下級生の面倒を見て、また、下級生は教えてくれる上級生に親しみをもって接することができ、楽しく活動することができた。

(4) 地域の方との交流

地域のお年寄りの方を昔遊びの名人として迎え、昔遊びを教えてもらう活動を1年生が行っている。給食と一緒に食べ交流を深め、感謝の気持ちと思いやりの心をもつことができた。

(5) 人権メッセージへの応募

夏休み明けに全クラスが取り組んだ。低学年は、保護者と一緒にメッセージを考え、人権意識を高めるよい機会となった。

II 今後の課題

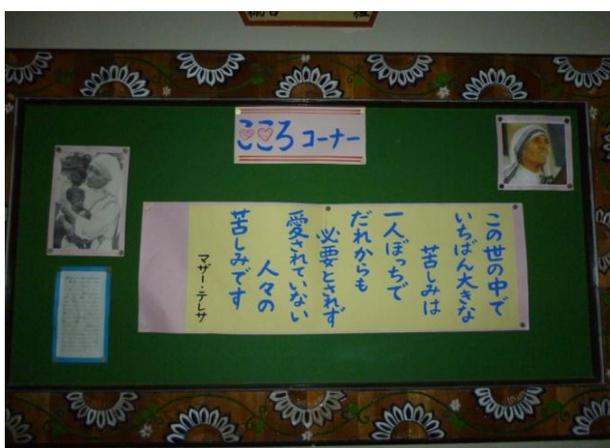
- 1 本校人権教育の目標や計画について職員の共通理解を図り、具体的な活動や指導について各学年の計画を立案することによって、より実践的な活動を展開する。
- 2 本校児童の実態を常に把握し、課題意識を持って指導に当たるとともに、職員の研修の機会をできるだけもてるようにする。
- 3 「なかよし週間」については活動内容を検討し、今後も継続して実施する。
- 4 人権教育に関する指導資料や視聴覚教材などについての情報を収集し、より有効な活用を図る。
- 5 授業参観や懇談会などの機会に人権に関する学習や話題を提供し、家庭への理解を深める。

III 人権コーナー設置の様子

<各学年の取り組み（映画鑑賞後の掲示）>



<こころコーナー>



<廊下に掲示してある詩>

